

平成 2 9 年 1 月 1 2 日
2 0 8 及 び 2 0 9 会 議 室

平成 2 9 年第 1 回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

平成29年第1回立川市教育委員会定例会

1 日 時 平成29年1月12日(木)

開会 午後 1時

閉会 午後 1時50分

2 場 所 208及び209会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 松野 登 田中 健一

伊藤 憲春 佐伯 雅斗

署名委員 田中 健一

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 栗原 寛

教育総務課長 庄司 康洋

学務課長 田村 信行

指導課長 小瀬 和彦

統括指導主事 金井 誠

教育支援課長 矢ノ口美穂

統括指導主事 桐井 裕美

生涯学習推進センター長 浅見 孝男

図書館長 土屋英眞子

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 西上 大助

安藤 悦宏

案 件

1 報告

- (1) 平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について
- (2) 入学式・卒業式の適正実施について

2 その他

平成29年第1回立川市教育委員会定例会議事日程

平成29年1月12日
208 & 209 会議室

1 報告

- (1) 平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について
- (2) 入学式・卒業式の適正実施について

2 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、平成29年第1回立川市教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員に田中委員、お願いいたします。

○田中委員 承知しました。

○小町教育長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、報告2件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。

次に、出席者の確認を行います。栗原教育部長、お願いします。

○栗原教育部長 本日の第1回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございますが、教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、金井統括指導主事、教育支援課長、桐井統括指導主事、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎報 告

(1) 平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

○小町教育長 それでは、1報告(1)平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について、小瀬指導課長、報告をお願いいたします。

○小瀬指導課長 それでは、平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析の概要について、ご報告いたします。

資料は、A3判が6枚ございます。

まず1枚目をご覧ください。Ⅰ 調査の概要でございます。

調査の目的は3点ございます。1点は、児童・生徒の学力の定着状況を把握して、教育行政施策に反映させることでございます。2点は、児童・生徒一人ひとりの学力の定着と伸長を図ることでございます。3は、児童・生徒の学力の状況について、市民に対し広く理解を求めることでございます。

調査は、平成28年7月7日に実施いたしました。

調査の対象学年は、小学校5年生、中学校2年生です。

調査内容は、小学校は、国語、社会、算数、理科の4教科でございます。中学校は、この4教科に加えまして英語を加え5教科で行っております。質問紙としては、児童・生徒質問紙調査と学校質問紙調査がございます。

実施率は、小学校で98%、中学校で95%ございました。

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要をご覧ください。

それぞれ上段の太字の数値は本市の平均値であり、下段の括弧の数値は都の平均値を示しております。

Ⅲ 児童・生徒質問紙調査結果でございます。

今回は、主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングの視点から分析をい

たしました。

「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」という質問に対して、小学校では「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童の割合は76.9%、中学校では66.5%でした。

また、「そう思う」と回答した児童の平均正答率、クロス集計でございます、平均正答率は70.8%で、「そう思わない」と回答した児童の平均正答率は53.8%でした。平均正答率の差はなんと17.0ポイントもございました。中学校におきましても、「そう思う」と回答した生徒の平均正答率は60.8%で、「そう思わない」と回答した生徒の平均正答率は51.4%で、この差は9.4ポイントにもものぼりました。これらのことから、主体的・対話的で深い学びの場を設定していくことにより学力の定着と伸長を図ることができるということが明らかになりました。

続いて、IV 学校質問紙調査の結果でございます。

児童・生徒質問紙と同様、アクティブラーニングの視点から分析をしてみました。上段が小学校、下段が中学校になっています。左から、アクティブラーニングを「よく行っている」、「どちらかといえば、行っている」の順に並んでいます。先ほどの児童・生徒質問紙の調査結果と比較すると、別角度からではございますが、児童・生徒の意識と実際に学校が行っているアクティブラーニングの割合が非常に類似した数値になっており、調査結果の信頼性が高いと言えると思います。

2枚目の資料をご覧ください。児童・生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果分析です。

一番左側のボックスをご覧ください。授業の内容がよく分かりますかという意識調査の経年比較でございます。都の学力向上パートナーシップ事業とか学力ステップアップ推進事業、また補習学習など、学びの複線化事業のその前とその後の事業展開について、平成25年度から28年度にかけて経年比較したものでございます。

小学校においては、授業内容が「よく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と回答した児童は、25年度と比較するとほとんどの教科で増加しており、特に算数については増加の割合が非常に高くなっております。中学校においても、25年度と比較すると全ての教科で増加しております。これらの児童・生徒の意識調査から、小中学校ともに授業改善が進みつつあると分析することができます。

真ん中の欄のグラフは「立川市民科」との関連から、抽出、分析したものでございます。特に真ん中の一番下の棒グラフをご覧ください。自分の住む地域や社会をよくしたいと思う、と回答した児童・生徒ほど正答率が高いことが明らかになりました。小学校では「そう思う」と「そう思わない」と回答した児童の平均正答率の差は12.1ポイント、中学校では8.0ポイントにのぼりました。ちなみに5ポイント以上格差があると、非常にそれは相関関係が高いということが統計学上、言えることでございます。

これらのことから、今後「立川市民科」のより一層の充実を図っていくことが有効である

ことが分かります。

一番右側上段のボックスは、児童・生徒の規範意識と学力の関係を分析したものです。

今までよく規範意識や道徳性と学力は関係があると一般論でよく言われておりますが、今回のクロス集計の分析から、規範意識や道徳性と学力は非常に相関性が高いというのが明らかになっております。

一番右側下段のボックスは、小学校質問紙調査、観察・実験に焦点をあてまして、「観察・実験において、児童に様々な器具や薬品を使用させていますか」という質問に対し、「使用させている」と回答した学校の割合です。ご覧いただくように、東京都と立川市の差は 13.0 ポイントの差があり、今後、理科の授業において様々な器具や薬品を使用させるなど観察・実験などの活動の充実を図っていく必要がございます。

続きまして、具体的にどのような問題で成果があり、どのような問題で課題が生じたのか、説明をいたします。

まず成果が見られた問題から説明してまいります。3 枚目をご覧いただきたいと思います。左側のボックスが小学校、右側のボックスが中学校になっております。

その中でも顕著な例では、Ⅱ 小学校社会を見ていただきたいと思います。問題を読みますので、是非一緒に解いてみていただけたらと思います。

ゆういち君の学級では、B市のぶどう栽培の様子について調べることになりました。次の【B市のぶどう農家の人の話】を読んで、この話を確かめるための資料として最もふさわしいものを、下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう、という問題でございます。

B市のぶどう農家の人の話が、よいぶどうを育てるための条件の1つとして、夏と冬の気温差が大きいことがあげられます。B市はこの気温差が激しいので、ぶどうづくりに適した場所であると言えます、というぶどう農家の方のお話を受けて、ではアイウエのうちどの資料が根拠になるかという問題でございます。正答はアになります。

これは新学習指導要領で、学ぶ内容だけではなくて学び方ということが今回の次期学習指導要領に着目されているところですが、その観点から出題の意図があるかと思えます。

続いて右側のボックス、Ⅲ 中学校数学の問題を見ていただけたらと思います。

$a = -4$ のとき、 $2a + 7$ の値を求めなさいという問題で、言うまでもなく正答は -1 となります。

小学校社会、中学校数学を代表で説明しましたが、実は校種、教科を超えて共通した成果が明らかになっております。それは、立川市立小中学校の児童・生徒について、必要な情報を複数の情報から正確に取り出す力、また、習得した知識を正確に適用する力の定着が進んでいると捉えることができます。

その反面、課題が明らかになった問題について説明をさせていただきます。資料4枚目をご覧ください。

Ⅲ 小学校算数、左側の下段のボックスになります。問題を読みますので、是非どうい

う問題なのか解いていただけたらありがたいなと思っております。

けんじくんは、毎朝学校まで30分歩いて通っています。その道のりを全て走ると、半分の時間で学校に着くことができます。けんじくんとあきこさんは、次のように話し合いながら、学校に着くまでに走った時間と歩いた時間、かかった全ての時間を「表」にまとめようとしています。①と②に当てはまる数をそれぞれ書きなさい、という問題でございます。

そして会話がなされていて①②にどのような数字が入るか解いていただけたらと思います。

正答は、①に2が入ります。②に29という数値が入っております。正答率は10.1%ということで非常に課題が顕著な問題でございます。

続きまして、中学校で課題が明らかになった問題でございます。資料5枚目をご覧ください。5枚目の左側のボックスの下段、Ⅲ 中学校数学の問題です。この問題は過去の全国学力学習状況調査、国の調査でございます。国の調査で出題されたものと非常に類似しております。立川市の中学生の課題点が如実に表れております。これも試みていただけたらと思います。

2つのヒストグラムを比較して、そこから分かる特徴をもとに、運動会で玉がより多く入ると考えられる方法を1つ選ぶこととするとき、あなたならどちらの方法を選びますか。「ア」と「イ」から1つ選び、その理由を、ヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい、という問題でございます。

これは次期学習指導要領で指摘をされている答えは1つではない。そして根拠を明確にして自分なりに表現する力というのが求められる問題でございます。

正答例が出ておりますが、見ていただいて、立川市だけではないのですが、本市において一番課題が如実に表れている問題例でございます。

右側の上段、Ⅱ 中学校社会を見ていただけたらと思います。細かくて恐縮ですが、資料1・2、図であったり年表であったりということで非連続テキストでございます。そして資料3は、要点をまとめた連続的テキスト、この非連続テキストと連続テキストを比較関連付けて、江戸のまちに上水が整備されていった理由を解釈し表現する問題でございます。

これらの問題から、小中学校の校種、教科の枠を越えて、言い換えますならば共通した課題が浮かび上がってまいります。第1に問題場面がどのような状況か判断する力を身に付ける必要があるということ、第2に、問題場面から取り出した複数の情報を比較関連付けて理解、解釈する力を育成していく必要があることが明らかになりました。

最後でございますが資料の6枚目をご覧ください。

Iが教科別正答数分布でございます。

見ていただくと小学校国語、社会、算数、中学校国語、数学は、右肩上がりの傾向を読み取ることができます。これが過去においてはよく、ふたこぶ型に二分極しているとか、左側に山がということから、右に山が変わってきたという変化を捉えることができます。

このことから、授業改善が確実に進んでいるということが伺い知ることができます。またもう1点、立川市の特徴として分布傾向が東京都全体の傾向と著しく類似している傾向を捉

えることができます。

もう1点一番右側の欄、Ⅱ 四分位の正答数内訳をご覧ください。

これは平成26年度と28年度の比較でございます。一番左側のA層、A層というのは習熟程度の速い児童・生徒の層でございます。BCD、D層は習熟の遅いお子さんの層を表わしております。算数、数学とも平成26年度に比べて28年度においては、習熟の速いA層が増加し、習熟の遅いD層が減少している傾向を捉えることができます。

このことから、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られ、思考力・判断力・表現力の育成が進みつつある状況ということを分析することができるかと思えます。

以上の分析及び成果と課題を踏まえまして、1枚目にお戻りいただけたらと思えます。

1枚目の一番右側、Ⅴ 分析結果に基づいた立川市立学校における経営・授業改善方針でございます。

ここでは7点、分析の結果を踏まえましてご提示しております。今日の午前中、校長会がございまして、校長先生方にはこの6枚の資料を提示しまして説明したところでございます。

報告は以上です。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、松野委員。

○松野委員 私が今までの話を聞きながら、この資料を見ながら、やっぱりそうだなと思ったのは、学力を向上させる意義について、実に良い資料を作成されたと思えます。それというのは、分かるとかできる、これが伸びている、この部分が私は2枚目に市民科との関連について、住んでいる地域や社会をよくしたいと思う、これにつながっていることですね。

やはりこの分かる、できる、成就感とか達成感、そういうものを勉強の中で味わっていく子どもたちは、自尊感情や自己肯定感を高めていく、だからよりよく生きようというふうを考えている結果ですね。そういう意味で私はまず学力向上を、「おぼえよ、できる、なれ」というのではなくて、人間形成としてきちんと学校も先生方も、まず踏まえる必要があるなということを感じたわけでありませう。

その上に立っての質問ですが、我々も学校訪問をしながら良い授業を観たり、良い学校経営をみたりしてまいりましたが、しかし授業改善の方針、経営方針に照らしてみると、まだまだ問題解決していない学習であるとか、立川スタンダードの実施であるとか、不十分だと感じております。これをどう具体的に進めていくのか、これが一番の課題ですね。

指導課ではどうですか、どのようなことを、どれほどできれば、さらに来年の学力向上につながっていくんだとお考えなのでしょうか。その辺りを聞かせていただけるとありがたいと思えます。

○小町教育長 小瀬指導課長、お願いします。

○小瀬指導課長 松野委員がおっしゃったように、子どもたちの学ぶ意欲が、学ぶ意識にも非常に大きいウェイトですし、また学ぶ意欲がないと思考力・判断力・表現力というのは身に

付いていかない、まさにおっしゃるとおりだと思っています。

そして授業改善に関しては、この経営・授業改善方針の2番にあげております。また前回は前々回も教育委員会でご報告させていただいた立川スタンダード20がございます。これ今、各学校がやっとそれぞれの学校なりのスタンダード20を基準にして作り始めています。早いところではそれをつくって、そしてそれぞれの先生方が自己申告を行い、そしてその達成に向けて努力をしていただいているところです。

そして私どもも、指導主事また学校サポートセンターの元校長先生方、いろいろの授業の1年次、2年次、3年次、また10年次経験者まで授業観察を意図的に行っておりまして、スタンダード20の観点から評価また助言をするというように、ぶれない、一貫した指導体制を整えているところです。また今後より一層、スタンダード20を基にしたそれぞれの学校のスタンダードというのを定着していくことによって、これからのまさに授業改善、これがないと思考力・判断力・表現力というのが育成できませんので、重点的に力を入れていきたいと思っていますところでございます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 学力の一番の基本は基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。私は指導要領の中の指導事項、このことをきちっと子どもたちが理解でき、あるいは獲得できていく、このことだといつも思うのですが、しかし授業を観たり、あるいは研究会の発表などを見ますと、一体子どもたちに何が身に付いたのかということがいつも不明瞭です。ですから、なかなか基礎的・基本的な内容を身に付けるといっても、何が、どれだけ、つまりこのことは教育にいくら予算をかけたって意味ないじゃないかということもよく言われてきたことだと思うんです。

これはどうですか、もう少し成果を明瞭にするようなことを現場でもやってもらえないかと私は思うのですが、出来ばえをどう明らかにしていってよいか、何か構想はありますでしょうか。

○小瀬指導課長 一つ明らかになっているのは、この6枚目を見ていただくと、数値がはっきりしております。立川の都の学力調査を見ましたけれども、小学校でA層がこれだけ増えていることは、なかなかこれほどはっきりしたデータは出ません。それが中学校はA層が3.7ポイント、これは先生方の非常に大きな力の成果であると確信しております。

それと同時にD層、D層というのは習熟の遅いお子さんです。これが平成26年度と比較するとマイナス7.7ポイント、減っているわけです。これは確実に基礎的・基本的な知識・技能というのが平成25年度、26年度、27年度、28年度と年度が経つにつれて増加しております。これは一つの大きな確かな学力の定着であると考えております。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 こうしていろいろなデータが出てきますと、数値で表われる良い点、悪い点がありまして、立川の子どもたちも東京都の平均より上回るぐらいの力をつけるように頑張らないといけないなとつい私も思ってしまいます。いい特効薬等、来年に向けて一番ここをこの

ように指導課で考えていることがございましたらお聞かせください。

○小瀬指導課長 特効薬は教育にはございません。それが教育でございます。ただし、この6枚目のグラフを見ていただくと、全く何もない状態ですと正答数分布といいまして真ん中に山がまいます。そして非常に学力の定着が阻まれた場合には山が左側にまいます。これは平成28年度の結果でございますけれども、これだけ国語、社会、算数、数学等々が右側にシフトしてきたというのは、確実な定着が少しずつではあるのですが進んでいる状況でございます。

したがって、これからの施策をさらに一歩進めるとともに、今行われている確かな定着と伸長を目指してやっていきたいと思っております。

○松野委員 今度の指導要領からカリキュラムマネジメントの導入があります。各学校が何を重点的な資質・能力として子どもたちに身に付けさせていくのか、これを明瞭にしなければいけません。そういうことがいつも曖昧だから、結局その結果、何が伸びて何がダメなのかいつも不明瞭だ。だから改善がなかなかできない。

これ、どうなんですか来年、特に教育課程の編成あるいは校長の経営、ここにきちんと位置付けてその成果を見るためにはどうするべきでしょうか。

○小町教育長 小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 カリキュラムマネジメント、簡単に言ってしまうとPDCAというのは今までは年間に1回しかしていなかった。例えばこういう学力調査、これは7月に実施しました。その前に国の学力調査が4月にあります。その調査結果の分析を踏まえて、すぐに評価していく。どういう点に課題があったのか。先ほど問題を出しましたが、それは実は単なる数学の問題ではなくて、数学の問題を通して全教科に通して課題のあるところ、この点について授業改善をしていく。したがって今回出させていただいた問題というのは単なる1問題ではなくて、この問題が解けるようになることが一番の学力の課題を解消していくことになります。

今は具体的なお話でしたけれども、もう一つ大きなお話をすると、立川市がこれから立ち向かって行く学力の課題は思考力・判断力・表現力の育成になります。確かな知識とそれに基づいた技能はだいぶ定着が進んでまいりました。これからはカリキュラムマネジメントの中心に据えるのは思考力・判断力・表現力ということで、これは校長会等々の折りを見て発信しております。

○松野委員 期待しております。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果、丁寧に分析されて感謝申し上げます。報告にあたり、資料6の4、6の5の結果から、課題をしっかりと取り出しながらか、しかも小学校の場合は4教科、中学校は5教科、それぞれ1問ずつを例示してしかも重点的に取り上げている。このような取り上げ方を通して指導課としては、これが成果である、これが課題であるということを明示することによって、各学校がこれを受けてさらに検討さ

れるのではないかと。そういう意味では各学校は問題を検討するではなくて、問題をしっかり検証してほしいと思います。そのため、何を、いつまで、どのように取り組み、授業改善を図るか、そのことが必要ではないかと思えます。

先ほど出ておりました、何が、どれだけ改善できたのか、あるいは成果として出てきたのかということがありますが、私は、いろいろな取組がありますが、一言で申し上げれば評価が不明確だというのが一つ言えるような気がします。それはどういうことかといいますが、評価規準はあるけれども評価基準が極めて曖昧である。その評価基準は児童・生徒も知っているし保護者も知っている、そういうことが必要ではないか。それによって何がどれだけできたか、しかも子ども自身が自己評価し、家庭でもそれがご覧になれると思います。そういう点で少し難しい言い方になりますが、先ほど申し上げた評価基準、そのためルーブリックの評価、これを研究する必要があるかなと思っています。

その上で3点ほど提言させていただきたいと思えます。

1点目は、各学校へ今後、A層からD層までの児童・生徒の授業改善を検討するのではなくして、検証をしっかりと行っていただきたいということを申し上げたいと思えます。具体的には資料6の6のA、B層の児童・生徒については今後考える力を高めるために、先ほど指導課長がおっしゃっていましたように、思考力・判断力・表現力を一層高めることが重要だと私は考えております。つまり習得型から活用型の授業改善、これを一層図ることが大事ではないかと思えます。そのことは検討ではなくて検証を各学校していただくと同時に、一方、C、D層が今後基礎的・基本的な基礎学力を一層図るための授業改善、それは検討ではなくて検証をしっかりといただくことが必要ではないかと思っております。

2点目は提言でございます。これについては各学校は児童・生徒の学力向上を図るための調査をもとに、データをしっかりと分析して今後の授業改善に活かしてほしいということです。学校現場の校長先生がきちんと分析して検証することは、なかなか時間的に厳しいと、そういう声を聞いていますが、それでは学力向上は厳しいだろうと思えます。したがって今後、具体的に東京都との比較の検証、2点目が当該校の経年比較の検証、3点目がA層からD層の比較の検証をしっかりと行いながら、今後の授業改善を一層図ることが重要ではないかと思っております。

最後の提案でございます。各学校は問題ごとの分析と検証をもとに授業改善を図ることであります。このことについてはこれまで小瀬指導課長が行っていました問題ごとの分析と検証、これを各学校も丁寧に行うことによって当該校の授業改善につなげることが重要だと思います。

私もこれまで教育委員を8年やらせていただいて、ここまで問題ごとにきちんと分析をし、しかも検証し、どう改善すべきかをなさったのは小瀬指導課長が初めてです。こうして具体的に各学校が児童・生徒の問題を通して授業改善を図っていく。そのために大事なことは、児童・生徒に問題の資料を読み取らせる、資料を比較検討させる、問題の意図を理解させて的確に把握させる、丁寧に問題を解かせるなど、日常の授業改善が必要ではないかと考

えております。その意味で各学校が問題ごとに分析を検証するとともに、授業改善を一層図ることを提案申し上げます。

○小町教育長 小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 田中委員ありがとうございます。ご提言を3点いただきまして、しっかり踏まえてやっていきたいと思っています。先ほどお話がありましたけれど、検討ではなく検証ということで、そこは問題意識を持っておりまして、次年度、分析の仕方というもの、どのようにしたら分析ができるのか、どういうところに目を付けたらいいのか、という研修会を教務主任会もしくは研究主任会を通して、1回か2回、定期的に分析していこうと学校に伝えていきたいと思っています。

そしてご提言にあったように、各学校によって学習のつまずく場所は違っておりますので、その学校なりの、自分たちの課題はどこにあるんだというところの問題意識をしっかりと持っていただくかなと考えているところでございます。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今もお話が出ましたように、各学校ごとに分析はされていますが、検証しながらそれをどう授業改善に活かすか、時間の関係もあってなかなか十分でないという声は聞いております。したがって、くどいようですが、分析しながらなお検証して、どうそれを改善に活かしていくかということ具体的に指導と評価の一体化を含めて行っていただくと、なお一層学力が向上するのではないかと、そのように期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 学校の授業に関してのいろいろな細かい分析を読ませていただいて、あっそうなんだというふうに分かりやすい形で出していただいたと思います。気になったのは、この調査の概要の中にあります調査内容の2番とか3番、児童・生徒の質問紙調査の中での生活に関する意識や生活状況ですとかの質問紙の「家庭における」というところの判断がの中で比較的少なく感じます。私は、分析結果に基づいた経営・授業改善方針の中で、家の人と学校や社会の出来事について話せるよう積極的に支援をする、家庭における学校教育の見直しということが大切ではないかと思えます。

昨年度は、家庭学習や読書量等が一つのテーマとして挙げられていたような気がするのですが、今回は家庭学習の時間ですとか読書量とか、そういうことに関する記述がございませんが、何か特徴的なことはございましたか。あれば教えていただきたいと思えます。

○小町教育長 小瀬指導課長、お願いします。

○小瀬指導課長 こちらには今回は載せてないですけども、家庭学習を行う時間数と正答率を見ていくと、家庭学習をしっかり毎日繰り返し行っているお子さんというのは高い学力の数値を示しております。

今、教育委員会におきましても、10月に家庭学習の支援ということで家庭学習の手引きというものを、各小中学校で配布させていただいて、今お話のあったように、学校だけではな

く家庭においても学習習慣の確立を図っていくというのが非常に重要な本市の課題であると
考えております。

○小町教育長 ほか、ございますか。佐伯委員。

○佐伯委員 学力についても向上の成果がみられるということで大変喜ばしく思っているの
ですが、今回の資料でもD層が減っているというところ、すごく大切ではないかなと思ってい
て、これがB層、C層だけが減ってA層にそれが流れていくということで、D層の人数がそ
のままというように格差を大きくしているだけという結果ですと大変寂しいものと思いま
すので、なるべくグラフが全体的に右に上がっていくとかというものを目指していただいて、
理解ができない子どもと理解できる子どもの格差が大きく広げた形にならないように、先生
方にも是非、気を配っていただきたいと思いますので、そこだけお願いしておきます。

○小町教育長 私から、学力の問題に関しましては、私が教育長になったときから大変に大き
な課題だと捉えています。学校現場を見させていただきまして、どうしても授業の中で手が
止まっている子どもがクラスに何人かおりました。それは特定の学校ということではなくて、
どの学校にもそういう子どもたちがいまして、それを私たちが後ろから授業観察というこ
とで観るわけでございますけれども、おそらくその子どもの心は傷ついているのではないかと
思ったわけでございます。

そこで何とか学びにつまずいている子どもたちを救う手立てはないのかということで、学
校現場とも相談させていただきまして、なかなか先生方も手一杯なところがあるのでとい
うことで、では教員のOBだとか大学院生を補助員として使いながら、子どもたちの学ぶ機
会を、まず量として増やしたいということ計画いたしましたして、補充的な学習というこ
とで取り組んでまいりました。

これにつきましては東京都の補助をいただけるという話になりまして、平成29年度が最終
年度になるわけでございますが、3年間、小中学校に予算をつけていただくことができま
して、特に基礎的な知識の習得に関しましては、繰り返し学びの機会を増やすということで、
放課後であるとか土曜日であるとか、長期休業を使って取り組んできました。その成果がし
っかりと出始めているのかなというのが、今回私はD層が減ってきたというところに大きな
ポイントがあるのかなと思っています。

つまずいている子どもたちを何とか義務教育の中でしっかりと分かる授業にしていきたい。
授業が分かると、楽しいということになるわけでございます。補充教室に通った子どもたち
の感想を聞くと「分かる」「できる」「うれしい」という感想でございましたし、また保護者
の感想をお聞きいたしますと「補充教室、良かった」ということで、「是非うちの子も入れて
ほしい」ということで、そんな反響が大きい事業でございました。これに関しましては毎日
子どもたちも変わってくるわけでございますので、引き続き、基礎・基本の定着に向けては
学ぶ機会をしっかりとつくっていきたいと考えているところでございます。

それと並行して、思考力・判断力・表現力というところが大学の入試改革も含めまして求
められるようになってきています。それにもしっかりと対応しなければいけないということ

で、授業改善ということで、特にICTに関しましてはタブレットを入れて、学び合いによる学力の向上というものを少し重点的に取り組んでいこうということで、教育環境の整備も図ったところでございます。

これに関しましては、平成29年度が一つの大きなポイントの年度になるのではないかなと思っていて、ようやく平成28年度に小中学校のタブレットの足並みが揃いましたので、様々な教育実践が今、学校で始まっています。それは授業を観させていただくと、一人ひとりがお客さんではなくて主役となって授業に参加しているな、そのような授業に少しずつ変わり始めているな、それにタブレットは大変有効な道具として活かされ始めているなというのが私の考え方でございます。その成果を平成29年度はしっかりと結び付けていければいいかなと思っています。

いずれにしても、子どもたちの義務教育段階の力、確かな力と言われますけれども、その確かな力をしっかりと付けていきたいと思っています。立川市の向いている方向はとても良い方向に向いていると思いますので、引き続き科学的なこのような分析を各学校においても展開していただいて、それぞれの学校のウィークポイントをしっかりと探してもらって、一人ひとりの子どもをどのように伸ばすか、計画的に組織的に取り組んでもらうように、教育委員会も学校現場と一体となって取り組んでいきたいと考えているところでございます。

○小町教育長 ほかにはないようでございますので、報告(1)平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について、の報告及び質疑を終了いたします。

◎報 告

(2) 入学式・卒業式の適正実施について

○小町教育長 次に、報告(2)入学式・卒業式の適正実施について、に入ります。

小瀬指導課長、報告をお願いいたします。

○小瀬指導課長 それでは、入学式・卒業式の適正実施について、ご報告いたします。

本市におきましては、これまでも入学式・卒業式等の儀式的行事における国旗掲揚や国歌斉唱の状況について、適正に実施しているところでございます。平成28年度卒業式及び平成29年度入学式におきましても、適正な実施を図っていくことに努めてまいりたいと考えております。

具体的には、12月28日付で各学校に入学式・卒業式の適正実施について通知を行っており、実施にあたっては、平成15年、平成17年に通知した入学式、卒業式等における国旗掲揚及び国歌斉唱の実施についての通知、及び実施指針に基づくとともに学習指導要領に則った指導を行うよう指導したところでございます。

報告は以上でございます。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、松野委員。

○松野委員 昨年の実施状況で課題等ございましたら教えてください。

○小町教育長 小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 引き継いだ時点では大きな課題は見られなかったという報告を受けております。適正に実施されたということでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 入学式・卒業式の適正実施については、昨年の12月に入学式、卒業式等における国旗掲揚、国歌斉唱に関する指導について通知が出されております。また、これまで東京都教育委員会教育長名で通達が発せられておりますし、さらに平成29年1月下旬に、「入学式や卒業式などにおける国旗掲揚及び国歌斉唱の指導に関する資料」、これが東京都教育庁指導部から発出される予定でございます。

したがって各学校においては、教職員はもとより、児童・生徒に指導徹底をお願いしますとともに、同時に保護者あるいは来賓の方にも周知をよろしくお願いします。それが公教育としての国民の責任であると、そのように考えておりますので、なお一層の適正な実施をよろしく願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。

これで、報告(2)入学式・卒業式の適正実施について、の報告及び質疑を終了いたします。

○小町教育長 次に、その他に入ります。

その他、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

◎閉会の辞

○小町教育長 次回の日程を確認いたします。平成29年第2回立川市教育委員会定例会は、平成29年1月26日、午後1時半から302会議室で開催いたします。

これをもちまして平成29年第1回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後1時50分

署名委員

.....

教育長